

○伊藤きよ子* 日下部信幸**

（*東海学園女短大 **愛知教育大）

目的 前報では白地に黒のストライプ柄をプリントしてワンピースを製作し、ストライプの幅や傾斜角度、形を変化させたときのイメージの差について検討した。今回はストライプ柄の明度を3段階に変化させてワンピースを製作し、明度によりイメージに差異がみられるか検討した。

方法 ①ストライプは2色配色とし、白地に黒、濃灰、淡灰のストライプ柄をプリントした。ストライプ幅は5_{mm}、20_{mm}の2種類、ストライプの傾斜角度は0度（たて）、30度、45度、60度の4種類である。なお傾斜角度30度、45度、60度のストライプについては、右上がりの斜めストライプ柄と谷形のストライプ柄の2種類をプリントした。②①の布を用いて42種類のワンピースを製作し、試料とした。③各試料のイメージは、濃灰で同一柄の試料を比較試料として、それとの比較により測定する方法と、次に示す方法により測定した。すなわち、たてストライプはSD法、斜めストライプは、同色で同幅のたてストライプの試料を比較試料とする方法、谷形のストライプは、同色・同幅で同一の傾斜角度をもつ斜めストライプの試料を比較試料とする方法により、イメージを測定した。評価は18の対語による5段階評価とした。

結果 ①同一柄の試料を比較試料とした測定では、ストライプ幅20_{mm}の方が明度の違いによるイメージの差が大きくなる傾向にあった。また、明度によるイメージの差の大きさは、傾斜角度や形を変化させてもほぼ同様であった。②20_{mm}で濃灰のストライプは、斜めや谷形ストライプにすることによって、比較試料より「大胆な」イメージが強くなった。